# 明治大学の教育

# **PROFILE**

江川 ひかり EGAWA Hikari

## 文学部教授•教務主任

専門:オスマン帝国史

東京都生まれ

1997年 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博 士後期課程満期退学、明治大学文学部非常勤

講師

1999年 立命館大学文学部助教授 2007年 立命館大学文学部教授

2009年から現職

Yağcı Bedir Yörükleri : Bir Yörük Grubu ve Hayat

Tarzı (『ヤージュ・ベディル遊牧民―ある遊牧民グループ の生活様式』)(共著・Eren・2007年)

『世紀末イスタンブルの演劇空間一都市社会史の視点から』 (共著・白帝社・2016年)

Bir KentinToplumsal Tarihi Acısından Osmanlı'nın Son Döneminde İstanbul'da Tiyatro ve Çevresi (『都 市社会史の視点からみたオスマン帝国末期イスタンブルに おける演劇空間』)(共著·Dergah·2021年)

日本オリエント学会、日本中東学会、日本イスラム協会、東 欧史研究会、駿台史学会、明治大学東洋史談話会

を身につけることができる。 を身につける」と同時に、 科という3学科、 面から人間存在の根源に迫る心理社会学 学地理学科、内面性と社会性の双方の側 いる(表参照)。文学部では、 学生が専門分野を極めつつ、

多様な知識を学ぶことができるように配 学生それぞれが希望する「幅広い教養」 攻に設置された専門科目も履修可能で、 リキュラムに基づいて「充分な専門知識 他学科・他専 専攻別のカ 主体的に

を身につけた幅広い教養人の育成」であ 自然がおりなすダイナミクスを捉える史 を追求する文学科、 義の言語と記号に係る人間の多様な活動 る。この教育理念のもとに文学部は、広 文学部の教育理念は、「充分な専門知識 14専攻から構成されて 時空両面から人間と あったことが重要視されている。

気をもって島から島へと渡ろうとするこ どれひとつとして同じ島はなく、 学部長は 海流が島と島とを隔ててもいますが「勇 ークであると説明している。 「知の多島海」 というネット すなわち、 複雑な

端に今、 食料不足や身の危険からの逃避などとと が文学部で味わっていただきたい」と述 渡ってきたと考えられている。 年前、アフリカで現生人類が誕生した後、 と、この島迷いのスリルと歓喜をぜひわ もに、何よりも人類が持つ知的好奇心に 未知の海へと船をこぎだした理由として、 本の地へ辿りつくまでに、何度も海を アフリカを出たあるグループが現在の日 べている。 地球の誕生以来、 われわれは生きている。 46億年の歴史の最先 人類が、 約20万

慮された文学部の仕組みを、 合田正人文

# 書類があるのか、ゼミでの発表ではどの

「基礎演習」は、各専門分野においてどの

14専攻学生全員が履修する

ような研究入門書、

めの演習(ゼミ)クラスである。

1年ごとに研究を進展させていくた

4年生で執筆する卒業論文に向け

て設置されている。この少人数ゼミナー ミナールが1年次から4年次まで継続し どの学生から構成される必修の少人数ゼ 示したように、各専攻では数名~20名ほ な過程を経て蓄積されていくのか。

ションを行うのかなど、 ようにレジュメを作成してプレゼンテー いわば研究の基

理学専攻では学外実習も実施される。 礎を学ぶ入門クラスである。考古学・ 礎演習クラスは、 高校卒業直後の新入生

# 表 専攻別少人数ゼミナール科目(必修科目のみ)

表に

学生の

「幅広い教養」となるであろう。

では「充分な専門知識」は、どのよう

誤解をお互いに意見交換し合った経験は、 基礎知識を修得すると同時に、先入観や

| 三      | 専攻          | 1年次   | 2年次        | 3年次      | 4年次         |
|--------|-------------|-------|------------|----------|-------------|
| 文学科    | 日本文学        | 基礎演習  | 日本文学演習     | 日本文学演習   | 卒業論文        |
|        | 英米文学        | 基礎演習  | 英米文学演習     | 英米文学演習   | 卒業論文        |
|        | ドイツ文学       | 基礎演習  | ドイツ文学・文化演習 | 卒業論文予備ゼミ | 卒業論文        |
|        | フランス文学      | 基礎演習  | フランス文学演習   | フランス文学演習 | 卒業論文        |
|        |             |       |            | フランス語学演習 | フランス文学・語学演習 |
|        | 演劇学         | 基礎演習  | 演劇学演習      | 演劇学演習    | 卒業論文        |
|        | 文芸メディア      | 基礎演習  | 文芸メディア演習   | 文芸メディア演習 | 文芸メディア演習    |
|        |             | 表現・創作 | 表現・創作      |          | 卒業論文・卒業制作   |
| 史学     | 日本史学        | 基礎演習  | 史料演習       | 演習       | 卒業論文        |
|        |             |       | 文献講読       |          |             |
|        | アジア史        | 基礎演習  | 史料演習       | 演習       | 卒業論文        |
|        | 1<br>-<br>h |       |            | 文献講読     |             |
| 地      | 西洋史学        | 基礎演習  | 史料演習       | 演習       | 卒業論文        |
| 理<br>学 | <u> </u>    | 原書講読  |            |          |             |
| 科      |             | 基礎演習  | 考古学研究法     | 演習       | 卒業論文        |
|        |             | 考古学実習 | 考古学実習      |          |             |
|        | 地理学         | 基礎演習  | 地理学研究法     | 演習       | 卒業論文        |
|        |             | 地理学実習 | 地理学実習      | 地理学実習    | 地理学実習       |
|        | 臨床心理学       | 基礎演習  | 基礎演習Ⅱ      | 臨床心理学演習  | 卒業論文        |
| 心理     |             |       |            | 心理学実験    |             |
| 社会学科   | 現代社会学       | 基礎演習  | 基礎演習Ⅱ      | 現代社会学演習  | 卒業論文        |
|        |             |       |            | 現代社会学実習  |             |
|        |             | 基礎演習  | 哲学演習       | 哲学演習     | 卒業論文        |
|        |             |       | 哲学プラクティス   |          |             |

学部、

農学部など他学部生も受講してい

科の学生も、

さらには法学部、政治経済

理学科のみならず、文学科、

心理社会学

専攻専門科目「イスラム史」は、史学地

史学地理学科アジア史

に、興味のある講義を履修していると思

的好奇心を持って、

おそらくはごく気楽

14の島から他の島へ知

学部の垣根を越えて、

イスラムに関する

1年生から4年生まで、

専攻・学科

\*黄色は、該当する2年間のいずれかで履修することを意味する

43 THE QUARTERLY MEIJI

# 文学部におけ 1年次からの少 る **人数ゼミナ**

役割も果たしている。大学という大海原 まさにホー になることもあるが、基礎演習クラスは、 において、時には大勢の人波に溺れそう にとっては、高校時のホー - ムとなる寄港地と言える。 ームルー ム的な

における学問分野の特性に応じて「文学 数ゼミナールである「演習」は、 基礎演習を学修した後、2年次の少人 「史料演習」「文献講読」や「研究 、各専攻



ゼミの風景(臨床心理学専攻)

論文の方向性が明確になる。 卒業論文の基礎を学ぶことになり、 立て)、本文・注・参考文献の書き方など の予備論文執筆によって、論文構成

中で、卒業論文執筆を継続していくこと が大切となる。 の「演習」からの卒論に向けた積み重ね る場合もある。長期にわたる就職活動の 年生の春学期いっぱい就職活動に追われ 3年生の初冬から就職活動が始まり、 このような過程を経て、4年次の「卒 執筆作業を鋭意進めていく。今日、 ゼミで卒業論文の中間報告をし そのためには、やはり3年次

共有できることにある。 全員が導かれた時の止揚感・知的感動を ふっと新たな、 時には口角泡を飛ばす激論の果てに、 ミ生との議論の中で、時には同感し合い、 少人数ゼミナールの醍醐味は、教員とゼ カリキュラムが体系的に組まれている。 各専攻における学問分野の特性に応じて 始まり「卒業論文」の完成に至るまで、 少人数ゼミナール教育は、「基礎演習」に 以上、紹介してきたように、文学部の より深い理解へとゼミ生

> 法」「プラクティス」などの名称で、 念頭に、複数の史料を比較・検討する研 図とを照合しながら、史料批判の視点を 目指していく。 学専攻の「演劇学演習」では、基礎演習 研究を深めていく。例えば、文学科演劇 究手法を学んでいる。 ブルやエルサレムの町の記述と現代の地 講読し、当時の旅行者が辿ったイスタン の17世紀に書かれた旅行記史料の英訳を る「史料演習」では、オスマン帝国時代 立体的で多面的な学習を展開していく。 を視野に入れた共同研究を行ったりなど、 ように統一したテーマを設けた上で上演 み解く手ほどきを受けたり、宝塚研究の 家をお招きして上演の視点から戯曲を読 より各論に踏み込み、深みのある学びを における基本的研究姿勢の涵養を受けて、 また、史学地理学科アジア史専攻のあ 具体的には、 演劇の実践

生は、それぞれの研究テーマを定め、 らつき始め、大学4年間の半分が経過し てしまったことを実感するという。各学 スへ移った学生は、 を終え、3年生の4月に駿河台キャンパ 和泉キャンパスでの1・2年生の生活 「卒業」の二文字がち 卒

> 専門知識を磨く場となっている。 ゼミで発表し、質疑応答・議論を行う中 か」についてとことん考えていくことに のか」「卒論では何を明らかにしたいの 研究にはどのような書籍・論文があるの 究するテーマについて、「なぜそのテーマ 業論文完成に向けて準備を始める。3年 ンのスキルを修得する場であると同時に れの卒論にプラスとなる情報を得ること に気が付く。時には学生同士が、それぞ で、基礎知識の不足や新たな問題の視角 なる。これらの問題について各学生は、 か」「そのテーマのどのような点が問題な を選んだのか」「そのテーマに関する先行 する。演習では、各学生が卒業論文で研 次の少人数ゼミナールとしては、各専攻 もあり、ゼミ発表は、プレゼンテーショ で「演習」、いわゆる「ゼミ」が本格化

予備論文を提出する。教員は予備論文を 献・学術論文10本を読み、その要約およ スでは、3年生の夏休み終了時までに文 し、さらに秋学期末に8000字の卒業 び批評をまとめて秋学期の発表へと生か 例えば、アジア史専攻のある演習クラ 一人ずつ面談をして返却する。こ



学外見学の様子(現代社会学専攻)

グループディスカッションに生かされた」 と話しに来てくれた。また、 と改善点とを考えてきたことが、 ミでの仲間の発表に対して、必ず良い点 験したことが就活の面接に役立った」「ゼ たある4年生は「ゼミで何度も発表を経 に感じているのだろう。就職活動を終え では、文学部で4年間過ごした学生た 少人数ゼミナール教育をどのよう 10年前に卒 就活の

> 物語っている。 自らの努力によって発展していくことを 単なる大学4年間の学びに留まらず、そ 卒業生の言葉は、文学部の少人数ゼミ 話をしていただいた。このような学生・ ことです。だから後輩に、今の勉強を 的に分析し、比較・検討して問題解決策 るテーマに関してさまざまな資料を批判 業したーT企業に勤務する卒業生は「あ の後の人生においても活用され、さらに ナール教育で培われた知識や研究手法が、 を導き出すという、 に連絡をしてきたので、実際に現役生に したいんです」と、指導教員である筆者 しっかりやらなくてはならない、と話を いる手法は、 もともと卒論の時に学んだ 現在仕事で実践して

現在検討している。 学部生と大学院生が共に学ぶことができ とを願ってやまない。文学部では今後、 合宿などの行事がかつてのように、安心 る学修の場を設けることができないか、 長く続いたが、ゼミ単位での学外見学、 ナールでさえ、 して開催できる状況に一日も早く戻るこ この2年間は、コロナ禍で少人数ゼミ 対面がかなわない時期が

45 THE QUARTERLY MEIJI